るときには、むやみに外出するのは避けましょう。気になるからといって、河川や用水路の様子を見に行くようなことは危険です。

また、町が避難情報を発令したときなどには必要に応じ、早めに行動してください。その際、エレベーターや地下通路の使用は避けましょう。

さらに台風や大雨の際、局地的に雨が降ることで、土砂災害発生の恐れもあります。土砂災害は突然起こります。発生の予測が難しく、避難の判断が難しいのが特徴です。土砂災害では前兆現象が確認されることがあります。「山鳴りがする」「崖から水が湧き出している」「地割れが発生する」などが確認された場合は、早急な避難が必要です。

土砂災害は大雨などが要因となり、発生することが多い災害。大雨が止んでも、半日程度は注意が必要です。

「水の怖さ」を

命を守る行動をとる

●水の怖さ

早めの避難が必要な理由は「水の怖さ」にあります。水面から地面までの深さ「浸水深」が大人の膝の高さ（40 ～ 50cm）まであると、歩行が困難になり、避難することが難しくなります。

さらに、道路と水路の境目が分からなくなる上に、氾濫による水の流れが加わることで、命を落とす危険性があります。既に浸水が始まった危険な状況下で、屋外に出るのは避けてください。

●自動車での浸水避難は危険

浸水した道路での自動車の走行は危険です。自動車での避難は避けてください。

- 浸水深 10cm…走行可能
- 浸水深 10 ～ 30cm…ブレーキ機能が低下
- 浸水深 30 ～ 50cm…エンジンが停止
- 浸水深 50cm 以上…車が浮き、車内からの脱出が困難に

命を奪う危険から逃れる

●災害リスクの少ない場所へ移動

命を守るための避難行動は、災害リスクの少ない場所への避難が原則。避難先は、町指定の避難場所である必要はありません。安全だと考えられる場所（高台など）にある親戚宅や友人宅などへの避難も、選択肢の１つです。

●１階から２階に退避

浸水や土砂災害は２階に比べ、１階の方が被害を受けやすいとされています。すでに浸水が始まり、屋外への避難がかえって危険であると判断されるような状況下では、頑丈な建物の２階以上へ退避することも、命を守る行動の１つだと考えてください。